

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 10

2006年10月発行

障害児地域生活支援

公共交通機関を使って出かけよう ～夏の個別活動 その1～

2006年8月1日(火) 10:15~15:30

協力 自立生活センター・あるる(都島区)



参加者 14名(中学生3名(うち電動車椅子使用1名)、
高校生3名(うち車椅子使用1名)、
大学生1名、ヘルパー1名
スタッフ2名(うち車椅子使用1名)

車椅子の使用者と一緒に市バスや地下鉄に乗ってみようという企画。梅田では、観覧車にも乗りました。障害をもつ生徒やその友達、ボランティアと出かけました。参加者は、中学生から大学生まで幅広い年齢層で、いろんな出会いや学びがあり、楽しい1日になりました。

<参加者のアンケートから>

(コースは次ページ)

感想

- ・ 今回、3人の車椅子の方と会ったけど、あたり前だけれど、皆さん違って
いて、そして、みんな非常に楽しい人たちだった。Nちゃんはしきり屋だ
し、Sさんは楽しい人だし、Eさんも実は明るくて楽しい。ボランティア
とかそういうことを離れても、今日は楽しい人と出会えて良かったです。
ボランティアはそんなに特別なことなんじゃないと思いました。
- ・ ほとんどがはじめてのことだったから、勉強になったし、楽しかった。
- ・ 普段は気づかないけど、車椅子の目線で見るといろいろなところで危ない
ことがあって、それを知って良かった。
- ・ こういうふうにかくさんの人達と交通機関を使って出かけるというのが、
今までになかったので、今日、緊張したけど参加できて良かったです。
- ・ 楽しかったです。

<コース> (感じたことや気づいたこと)

新森公園 10:15 集合 10:30 頃出発 市バス (リフトバス)



- ・リフトバスは車椅子にとってとても便利。けれども、リフトバス、ノンステップバスはとても本数が少ない。便利なバスでも限られた時間しか使えないのであれば不便と思う。
- ・リフトバスは、降りる時に少し不安があるみたいだから、何かもうちょっと工夫できんかな。
- ・バスの中に、車椅子用の場所があった。椅子が上がって、車椅子を置く場所ができてすごいと思った。初めて知った。

地下鉄都島 11:00 頃 地下鉄に乗り換え あるるのメンバーと合流

- ・地下鉄の乗車は、駅員の方が専用の器具を設置してくれた。また、地下鉄の駅はどこもエレベーターが備わっていて便利だった。
- ・乗るとき、降りる時は、駅員さんにスロープを出してもらって乗った。

東梅田 駅構内でトイレ 徒歩で移動

- ・車椅子対応トイレが1つで使用中 (車椅子使用でない方) だったので、1名は普通のトイレを使用した。2つあればよい。もう少し綺麗だったら…。
- ・普段は感じなかったけど、地下街の坂道は車椅子を押すとちょっと急でしんどかったから、もっと滑らかな坂道だったらいいと思った。
- ・車椅子を押していると、人が多いところだと、他の人にぶつからないように気をつけなければいけないので、大変だった。

観覧車 HEP

- ・車椅子から降りて観覧車に乗る。乗り降りの時は、観覧車を一時停めてくれた。名古屋には車椅子に乗ったまま乗れる観覧車があるらしい。
- ・係りの人の対応はよかった。

東梅田 12:30 頃 地下鉄

- ・電車の中にもう少し車椅子を停めるスペースが欲しい。
- ・エレベーターに乗るとき、今回は大勢だったから良かったが、1人の時、勝手にドアが閉じてしまうので困ると思う。

谷町六丁目 乗り換え (谷町線 → 鶴見緑地線)

- ・階段やエスカレーターならすぐに乗り継げるのに、エレベーターだと大幅に回り道をしなければならなかった。
- ・駅のエレベーターは設置している場所が不便なところにあることが多い気がする。

京橋 赤バスに乗り遅れ、市バス (ノンステップバス) で移動

自立生活センター・あるる

前のコンビニでお昼ご飯を購入
あるるで昼食を取りながら、振り返り

15:00 解散 一部は市バスで新森公園へ

15:30 新森公園で解散



<スタッフ振り返り>



- ・最初の市バスが遅れ、都島駅に着いたのが予定より遅かった影響で、全体のスケジュールが遅れ、最後に赤バスに乗り遅れたことが残念でした。お腹が減った人もいて申し訳なかったです。でも、市バス（リフトバス・ノンステップバス）、地下鉄、そして、観覧車に乗り、繁華街を車椅子を押して歩くなど、さまざまな体験ができたと考えています。参加メンバーが、中学生は友達同士であったり、高校生はたまたま車椅子使用者と同学年のボランティアであったり、中高生のお兄さんのような大学生であったため、和気あいあいと楽しい外出ができたと思います。また、自立生活センターの障害当事者が同行してくれたため、移動中や観覧車の中でいろいろ話を聞くこともでき良かったと思います。高校生・大学生ボランティアはボランティア初体験やそれに近い方が多かったのですが、車椅子を順番に押して、道々で気づきもあったようで、有意義な外出となったと思います。また、障害をもつ高校生は、外出の機会が少なく初めての体験もあったようで、今後、社会に出て行くステップになればと思いました。（ほうぷ）
- ・ほうぷの企画に初めての参加であったことと、途中合流ということもあり、私自身が緊張していました。参加者もボランティア初体験や外出経験が少ない方もおられたので、仲良くなる時間などをもう少し組み込んでも良かったかもしれないと思いましたが、参加者間の年代も重なっていたため、よい雰囲気楽しく過ごせたように思います。スケジュールも、盛りだくさんのポイントを押さえており、濃い時間を過ごせたように思います。「迂回」「待たされ」「乗り遅れ」などが体験でき、健常者視点で作られた“まち”を感じられる、きっかけになったのではないかと思います。ここから、それぞれが様々な形で、つながりあっていくことを願い、期待しています。（あるる）

プー ル で 遊 ぼう

～夏の個別活動 その2～

2006年8月7日（月）10:00～13:00

旭区屋内プール & 旭区在宅サービスセンター



参加者： 子ども2名、保護者2名、ボランティア（大学生）2名

男児2名と学生ボランティア2名で、プールで遊びました。保護者が、プール前に子どもの紹介をし、入水中は見守りました。プール後は、隣の旭区在宅サービスセンターに行き、参加者全員にほうぷスタッフが加わり、昼食をとりながら振り返りをしました。

<ボランティアのアンケートから> 子どもとのかかわりから感じたこと

- ・かなり元気でした。旭区屋内プールは、高齢者が多く子ども達が泳ぐには少し厳しい条件だったと思います。どうやって楽しく泳ぎを教えたらいいのか、いろいろ考えながらやってみましたが、あまりできなかったのが残念でした。
- ・いろいろなところに行ってみたいようで、かなり振り回されました。こうしたら良いということがないので、自分で考えて安全な方向に導いてあげるのは大変だと思いました。

<保護者アンケートから> 子どもたちのようす

- ・短期水泳教室(青少年会館)に参加し、伏せ浮きが少しできるようになっていたの
で、それをお兄さん(ボランティア)に伝えたら、ビート板を使って指導もやっ
てくれました。元気に楽しく泳いでいました。
- ・水は大好きなので、自分のペースにお兄さんを巻き込んでのびのびとプールを楽
しんでいました。大人が多い中、ルールを教えてもらいながら、自分なりにがんば
っていた様子です。バタ足をしたり、水に顔をつけたり一生懸命取り組んでい
ました。

<振り返りから>

- ・お母さんの存在はすごく大きいと思う。泳いでいる途中でもお母さんのことを思
っていたし、「お母さんは？」と何回も探していた。お母さんのほうも子どもさん
のことをすごく理解していて何をどう思っているか?とかをわかっていることが
すごいと思った。(ボランティア)
- ・短時間の間に子どもの特徴を捉えて、それにあわせて行動するのはとても大変で
疲れると思います。ありがとうございました。どの子にも同じことだと思います
が、基本的にいいことをした時には(たとえ小さなことでも)、誉めるという感じ
で、悪いことをした時には、きちんとダメと伝える(わかってもわからなくても繰
り返し根気よく)叱る(できれば理由も伝えられるといいのですが)、私自身、いつ
も努力していることです。(保護者)

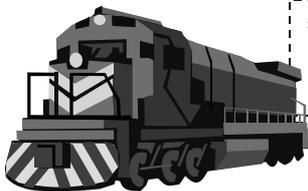
交通科学館(二行こう

～夏の個別活動 その3～

2006年8月24日(木) 10:30~12:00 旭区在宅サービスセンター

27日(日) 13:00~16:30 交通科学館

31日(木) 10:30~12:00 旭区在宅サービスセンター



参加者 子ども2名(8月27日のみ)、保護者2名、
ボランティア3名(大学生(院生含)2名、社会人1名)

コミュニケーション をとるのが苦手な子ども

もと、地下鉄に乗って交通科学館に遊びに行こうという企画。8月24日は、外出に備えての話し合いをしました。子どもの性格やかかわり方について、お母さんから説明を聴きました。27日は、地下鉄に乗って交通科学館に遊びに行きました。31日は、27日の外出を振り返りそれぞれの子どものサポートブックを見ながら、意見交換をしました。



<アンケートから>

事前準備・話をして気づいたことや感じたこと 8月24日

ボランティア

- お子さんが興味のあるものを増やせば、活動範囲が広がると思いました。27日（一緒に外出する日）になってみないとどういう行動をするかわからないという不安はありました。
- 事前にいろいろと話を聞かせてもらえて心の準備ができました。皆さん、自然な感じでリラックスしていられました。
- それぞれの子どもの様子が聞けて勉強になりました。外出介助をする上で大変重要になってくると思います。

保護者

- 普段のお出かけの際、気をつけていたことを自分自身再確認できました。ボランティアさんに名札をつけてもらうことを提案しました。親の知らないポイントが発見できたらうれしいと思っています。
- 初めての試みなので、どんな方が来られるのかと少々不安もありましたが、実際に会ってみて、大丈夫そうと安心しました。楽しい外出になるといいなあとと思っています。



外出をしてみて、考えたことや感じたこと 8月27日

ボランティア

- お子さん達は興味があるものを見つけると、周りが見えなくなるので、その辺はボランティアがカバーしてあげるべき点だと思った。T君は一度見たものでも自分の中でリセットして、また興味をもって見れるので、その辺はうらやましいです。
- 素直に聞いてくれていて、自分も楽しく過ごせました。また、あまり気かけすぎても困らせるような感じで、バランスが難しいところもあるように感じました。
- M君と接してみて障害のない子どもとあまり変わらないように思えた。しかし、ところどころで、質問しても返答がなかったり、こだわりが強かったり、急に情緒不安定になったりした。なぜ、そのような状態になったか考えるきっかけになった。

保護者

- 3人ともとても落ち着いて行動していらっしゃったように思いました。つかず離れずの距離感も自然と取れていました。
- ヘルパーさんのお出かけと子どもに伝えていたせいか、子どもの方はほぼ普段どおりのようすでした。子ども2人もそれとなくお互いを意識していたように思います。夏休み最後の日曜日で、小さな子どもさんも多い中、大きなトラブルもなく、子どもの意思を尊重しつつも、上下関係がしっかり取れていて安心して任せられました。

ボランティア

- お出かけの時に見たいものを見てもすぐ満足するわけではないということをサポートブックに書いたほうが良いと思いました。子どもがどういうビジョンを頭で描いているかを考えてあげることが大切だと思いました。
- お母さん方が、きれいにファイルを作られていたり、外出を思い起こすと電車の乗り降りのルールを理解させていたり、子どもへの愛情の深さを感じました。
- 家族からみて感じること・気づくこと、第三者からみて感じること・気づくことは、違ってくると思います。子どもが日常生活をよりよく送るために少しでも手助けになればいいと思います。

保護者

- 親と出かける際を基本にサポートブックを作ってきましたが、今回のお出かけで気づいた点をつけ加える箇所が出てきました。また修正します。
- 親が見ている（理解している）子どもとは、違った面が分かったことが、この企画に参加してよかった点です。いいきっかけになりました。

ボランティアへのメッセージ お母さん達から

- ヘルパーさんと私の付き合いが長く、良くも悪くも慣れてしまっていることがあるように思います。走り出した後をついていく姿も真剣で新鮮でした。サポーターに男性がいることのすばらしさを改めて感じました。
- 我が子のようなタイプの子どものは、空気を感じる・思いを感じるということが必要なのですが、それをちゃんと感じ取ってもらい、共感していただけたのがうれしかったです。



レクリエーションイベント

～ つくろう！遊ぼう！夏休み ～

2006年8月26日（土）10:30～15:00

大阪市立城北市民学習センター アトリエ

協力 千里金蘭大学 人間社会学部 社会福祉コース

参加者：子ども11名（7家族）、大学生9名、短大生7名、スタッフ：3名

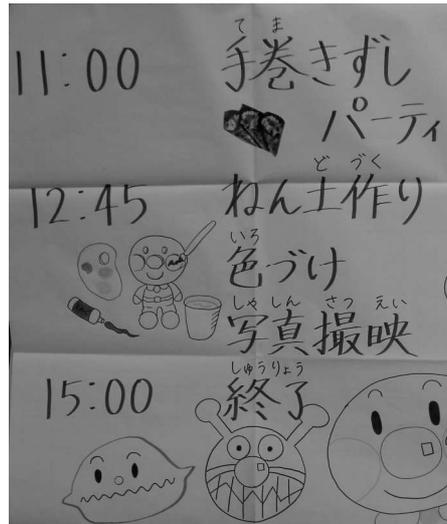
昨年、好評だった夏のレクリエーションイベント。今年も千里金蘭大学人間社会学部社会福祉コースと協働で開催しました。昨年の反省から部屋の大きさや活動内容を考慮して、参加定員を10名と少なくしました。千里金蘭大学社会福祉コースの学生さん6名が企画と準備をし、当日も中心になって活動をしてくれました。

障害をもつ子どもとその兄弟の、保育所年長から中学1年生までの子ども11名が参加してくれました。当NPO法人のイベントに何度か参加してくれている子ども達だったので、子ども達も感情を素直に出してのびのびと過ごすことができたようです。スタッフも子ども達に親しみを感じ、成長を楽しみにしています。

子ども達が学生さんと楽しい時間を過ごしている間、お母さん達は隣の旭区在宅サービスセンターで、自主的に座談会を開催しました。途中、子ども達が作った手巻き寿司をご馳走になり、ゆっくりと色々なお話をされたようです。7月に開催した保護者交流会第2弾という感じで、お母さん同士でそれぞれの思いを語り合ったり情報や意見を交換したりと有意義な時間になったようです。母親達もつながりあって元気になっていきます。

<プログラム>

- 9:30 ボランティア集合
打ち合わせ
買出し&手巻き寿司の具の準備
- 10:30 子ども達集合
- 11:00 手巻き寿司づくり
- 13:00 粘土工作 完成後記念撮影
- 15:00 子ども解散
片付け
- 16:00 振り返り
- 17:00 終了



<ボランティア・アンケートから>

- 楽しかった：14名、 どちらともいえない：1名、 無記入 1名

- ・いろいろな子どもと接して子どもの感じ方などを見れたので。
- ・子ども達と親しむことができ、一緒に作品などを作ることができたから。
- ・私がすることにとっても喜んでくれたから。 ・ワイワイと楽しかった。
- ・子ども達とたくさんふれあい、深さを知りました。 ・みんなかわいかった。
- ・どうしていいか、わからない事があった。
- ・しんどかったけど、今までにない経験ができたから。
- ・会話が通じるとうれしかった。けど、かなり大変だったし、痛いし、疲れた。
- ・障害児・健常児関係なく、とても楽しかった。

○ 子どもと接するのにどんなことに気をつけましたか？

- ・子ども同士が怪我をしないようにという点や子どもがやりたいことができるように接するようになった。
- ・子どもがしたくないと思うことは強制せず、危なくないよう見守りながら、したいことをできるだけできるよう気をつけた。
- ・笑顔で子ども達に接することと、子どもの要求になるべく答えられるようにした。
- ・なるべく子どもの気持ちや伝えたいことがわかるように、子どもの気持ちに寄り添えるよう気をつけて接した。
- ・今、何が一番したいことなのだろうかと考えながら行動するように気をつけた。

- ・子どものペースにあわすこと。勝手にこっちのペースにあわしたら、子どもが楽しくないから。
- ・トイレ介助。暑くないかとか。手洗い。
- ・子どものしたいことを優先にできるようにいろいろ聞いたりした。「やって」と言うのではなく、「やろう」と言って動いてもらった。
- ・子どもが楽しめるように、サポートした。また、カッターナイフやはさみなどは危険なので、近くに置かないよう注意した。常に目を離さないよう注意していた。
- ・あまり障害をもっているということを意識せずに普通に接した。



○ 子どもの関わりで、気づいたことや感じたこと

- ・子どもが好きなことをやっている時は、とても楽しそうに思っていたが、待ったりじっとするというのが苦手で、高い所に登ったり、他の友達をたたいたりした。いけないということはきっちり伝えなければならないのに、あいまいになってしまった箇所などあり、まだまだだなと感じた。
- ・初めての子どもでも、たくさん話しかけたりすることで、仲良くなれるのだということに気づきました。また、私の何気ない行動にもすごく反応していたので少し驚いた。
- ・怒れないと思った。「怒る」というか「注意」になるのですが、どういうふうに言えば伝わりやすいのだろうかとすごく考えたが、わからなかった。
- ・みんなが物知りでビックリした。たくさん勉強になり楽しかった。
- ・横にただついているだけでは、子どもの微妙な変化に気づけないことがわかった。
- ・初めのトイレの時は、何もわからなかったので、ドアを開けてやってもらった。でも、2回目の時、自分で戸を閉めてやったので、プライバシーというか、同姓だったり小さかったりするけど、恥ずかしいのには変わらないのだと思った。
- ・人なつっこい子、言葉で伝えられない子、じっとできない子、いろいろだけど、みんなかわいかった。
- ・子どもは素直だと思った。楽しいことは長時間でもできるし、あきたら違うことに興味を持ち始め。そういうのも接して行って、気づいて対処していかないといけないと思った。今日、一緒にいた女の子が「めっちゃ楽しかった」って言ってくれた時は、「やってよかったなあ」とほんとうに思った。
- ・子どもは、私が思っていた以上にいろいろなことがわかっているのだと知った。最初は子どもも恥ずかしいようで表情が硬かったが、慣れてくるうちにいろいろお話をしてくれた。
- ・おとなしい子だったので、今思えば、あんまり子どもから話さないで「私が質問して答える」みたいだったので、もう少し、話しかけてくれるのを待っていれば良かったと思う。



福祉教育

子どものころにひびく「福祉教育」を 考えるワークショップ

～ 「地域でともに生きる」をテーマに ～

旭区在宅サービスセンター 3階多目的室

主催 旭区社会福祉協議会 & 地域生活サポートネットほうぶ

協力 作業所みらいかん & 自立生活夢宙センター

講師・ファシリテーター 新崎国広氏（大阪教育大学教養学科発達人間福祉学講座）

＜第1回＞

2006年8月3日（木）10：30～16：00

参加者：16名（小中学校教員3名、地域ネットワーク推進員4名、他区社協職員2名、
障害者自立生活センタースタッフなど障害当事者7名）、スタッフ9名

10：30～ 講義「車いす・アイマスク体験だけではない福祉教育のエッセンス」

12：00～ 昼食 12：45～ 「あゆみ工房」「飛行船」によるクッキーやパンの販売

13：30～ 出合いのワークショップ・グループでの意見交換

感想

- ・自分自身を毎回新たにしてくれます。ありがとうございます。
- ・講義は時間的にもやむを得ないと思いますが、トピックス的な内容だったと思います。しかし、普段考えていることの再確認ができたことはうれしかったです。また、社会福祉に携わっている方が本当に真摯に仕事に向かっておられるなあと感心しました。
- ・もう少し参加したいと思わせる内容でした。今後の動機づけになります。

＜第2回＞

2006年8月7日（月）10：30～16：00

参加者：33名（小中学校教員11名、地域ネットワーク推進員9名、他区社協職員5名、
障害者自立生活センタースタッフなど障害当事者8名）、スタッフ11名

10：30～ 実践報告

- ・中学校と地域で取り組んでいる福祉教育
加古川市立山手中学校 神吉脩先生

- ・旭区内での福祉教育の取り組み

- ① 地域ネットワーク推進員の取り組み
- ② 「みらいかん」と小中学校との取り組み
- ③ 今市中学校の「わがまち探検」の報告
- ④ 旭区地域福祉アクションプラン「あさひあったかまちづくり計画」報告



12：30～ 昼食をとりながら歓談

13：15～ グループに分かれ、意見交換やプログラム案作り

感想

- ・プログラム作りをするにあたって、その前段階（組織内の調整や巻き込み方）が大切ということが共有できてよかったです。
- ・いろいろな職種の人や、当事者を交えて話し合うことができ、ほんと良かったです。
- ・今まで学校のみの実践をやってきました。地域からもっと力をもらおうと思いました。
- ・障害者本人の声が聞けてとても良かったです。（日常的に障害者に接していますが、保護者を介しての声になることが多いので）
- ・グループ討議を整理して共有する手法は、課題が明確になってよかったです。

★障害児地域生活支援の活動は、
大阪ガス「小さな灯火」運動『子ども支援市民活動 助成プログラム』の支援（助成）
を受けて実施しました。

★あさひ子育ておたすけマップ（第1版発行・ほうぶ）が、城北人権フェスティバル実行委員会のご協力で再版されることになりました。12月に第2版発行予定です。

編集後記

- ・ 遠足で鈴鹿サーキットに行ってきました。子どもたちに誘われ、絶叫コースターに何回も乗ったあげく、元々弱かった首に負担が…寄る年波には勝てません。今号は、ほうぶの楽しいイベントのお誘いがあります。絶叫系ではありません。でも、仲良くなる絶好のチャンス。ぜひご参加を！（N）
- ・ 9月下旬に、娘が劇団態変（身体障害者の劇団）の舞台に出ました。障害児者は「他人にじろじろ見られて嫌な思いをしている」という見方が世間一般の価値観。舞台にまで上がって「見なさい！」とばかりに自己アピールをする娘や他の出演者達をたくましく思いました。美しいと感じました。ありのままでかけがえのない存在である「あなた」に乾杯！（M）